

令和5年度実績報告書

令和6年3月31日
北海道大学アイヌ共生推進本部

1. はじめに

アイヌ共生推進本部（以下「本部」という。）は、アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するため、本学における施策を企画立案し、学内外のアイヌ民族とその他の本学構成員の共生を実現するために令和4年4月に設置された。

令和5年度は、令和4年度から実施している「学生への教育」「教職員への研修」「文化振興」「歴史的経緯の語り継ぎ」に「レイシャル・ハラスメント対策」を加えた5施策について、アイヌ民族に関する知見を有する本学の教員等から構成されるアイヌ施策検討委員会を中心に、以下に掲げる事業を行った。

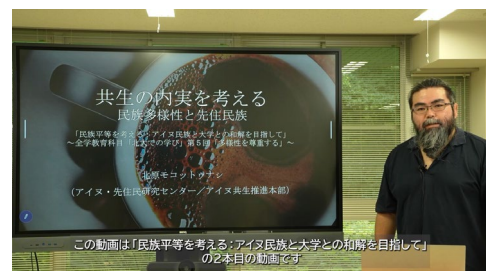
2. 各種施策

(1) 学生への教育

本学にはアイヌ民族にルーツを持つ学生・教職員が所属しており、大学構成員全体がアイヌ民族に関する理解を深めることで、これらの学生・教職員が安心して勉学や教育研究に専念できる環境を整備することができる。また、道外や国外からも多数の学生を受け入れている本学において、全ての学生がアイヌ民族について学ぶ機会を設けることは、差別のない民族共生社会の実現にも貢献すると考えられる。令和5年度は、以下に掲げる3事業を行った。

① 学部教育への参画

令和5年度学部入学者から1年次の必修科目となった全学教育科目「導入科目（北大での学び）」の中で、アイヌ民族に関する講義を行った。講義は多様性をテーマとした枠の中で実施し、「アイヌ民族と大学の和解を目指して」というトピックのなかで、「アイヌ史の舞台としての札幌キャンパスの歴史」や、「民族多様性と先住民族」に関する内容を取り上げた。本科目には、令和6年度以降も継続して参画する予定である。



(講義の様子)

② 大学院教育への参画

令和6年度から実施予定の「大学院共通授業科目：社会実装プログラム群（北大大学院での学び）」の令和5年度試行実施の中で、アイヌ民族に関する講義を行った。講義は北大の歴史と多様性をテーマとした枠の中で実施し、「民族平等を考える」というトピックのなかで、「アイヌ民族との和解と共生に向けた本学の取組」や、「アイヌ史の舞台としての札幌キャンパスの歴史」、「安心な学内環境実現へ向けての留意点」に関する内容を取り上げた。本科目には、令和6年度以降も継続して参画する予定である。

③ 北図書館におけるアイヌ関連書籍の展示

5月18日から6月23日までの間、附属図書館北図書館との合同企画として、北図書館東棟2階の展示コーナーにおいて、アイヌ関連書籍を展示する「本から学ぶアイヌ民族のことば、暮らし、歴史、交流 カンピヌカラアン ローイタケ、ウレシバ、ウパシクマ、ネプキ、ウコアプカシー」を実施した。

展示書籍はアイヌ施策検討委員会の委員が選び、計41冊を閲覧に供した。



(展示の様子)

(2) 教職員への研修

本学は、令和元年度に笠原総長職務代理（当時）が発表した声明において、研修等を通じてアイヌ民族に関する教職員の理解を深めることを表明しており、令和元年度から毎年、研修を実施している。令和3年度以降は、研修の対象者を、非正規職員も含めた全教職員（約8,000人）に拡大している。

令和5年度における研修は、

- ① 共生社会に向けた変革をめざして

(アイヌ共生推進本部 山本文彦本部長)

- ② サクシュコトニ川のほitoriから考える札幌キャンパスの歴史

(文学研究院 谷本晃久教授)

③ 国のアイヌ政策の動向 (アイヌ・先住民研究センター 落合研一准教授)

④ 安心な学内環境のために

(アイヌ・先住民研究センター 北原モコットウナシ教授)

⑤ 差別や偏見のないキャンパスの実現にむけた取組

(アイヌ共生推進本部 岡田真弓本部長補佐)

⑥ マイノリティに開かれた環境とは

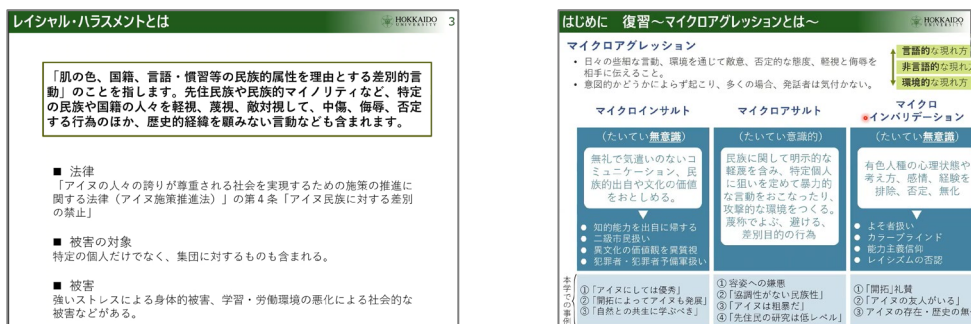
(アイヌ・先住民研究センター 北原モコットウナシ教授)

の6編をオンデマンド配信した。このうち⑤⑥は、令和5年度に新たに開講した。また、個々の研修の枠を概ね10分程度に収めるとともに、①～④について英語字幕を付すことで、視聴のしやすさに配慮した。

研修期間は12月20日から1月31日までであり、令和4年度視聴者を含めると、令和5年度在籍者のうち1,769名が受講した。これは、令和4年度受講者の1,053名に比して68%の増加であった。また、受講後のアンケートとして163件の意見が寄せられた。

研修動画及び資料は、研修期間後も視聴できるように学内限定サイトに掲載した。その際、⑤⑥についても英語字幕版を用意した。

更に、新規採用された正規職員が対象の「北海道大学初任職員オンデマンド研修(北海道大学)」のカリキュラムにおいてアイヌ民族に関する研修を必修化したほか、「北海道大学新任教員研修」のアーカイブサイトからも同研修を視聴できる環境を整備した。



(研修の様子)

(3) 文化振興

キャンパス内でアイヌ文化に親しむ機会が確保されていることは、アイヌ民族にルーツを持つ学内構成員にとっては安心な環境の確保につながる。また、それ以外の構成員にとっても民族文化への理解がより深まることが期待される。令和5年度は、以下に掲げる2事業を行った。

① アイヌ料理フェアの開催

北海道大学生生活協同組合との共催で、学内の8つの食堂において、アイヌ料理を提供するフェア「イペアン ロク！」を2回、開催した。

アイヌ民族の食文化は、周囲の文化との交流から得た品々によって新たなアレンジを加えながら育まれてきたものであり、メニュー開発にあたっては、伝統料理に詳しいアイヌ民族の意見をもとに、複数回にわたり試食会を行った。試食会には、アイヌ文化に興味のある本学の学生有志も参加し、メニュー内容や企画名について意見交換を行った。

[開催日] 第1回 令和5年7月 3日(月)～7月 7日(金)

第2回 令和6年1月15日(月)～1月19日(金)

[提供料理] ・ユクカム(鹿肉)のオハウ
・チェプ(鮭)のオハウ
・イナキビご飯
・ラタシケプ(和え物)
・チタatap風チポロ(いくら)丼



オハウ



イナキビご飯



ラタシケプ



チタatap風チポロ丼

② 構内循環バスへのアイヌ語アナウンスの導入

1月25日から、札幌キャンパスにおける構内循環バスの車内アナウンスにアイヌ語(主として石狩方言)を導入した。構内循環バスは年間約19万人(2台運行)が利用しており、そのうち1台でアイヌ語のアナウンスを流すことで、多くの教職員が日常的にアイヌ語に接する機会を設けることができた。

各停留所のアイヌ語翻訳はアイヌ語を専門とする本学の教員が担当した。音声は、アイヌ語による様々な実践に取り組んでいる市民団体「アイヌ語アナウンス部」の方に収録を依頼した。車内の座席にはアイヌ語の停留所名を掲示し、その語義を[オンライン](#)で確認することができるようにした。

循環バスは、学生や一般市民は利用することができないが、一部のアナウンス音声は、本学大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンターCoSTEPによるFacebookページ「[いいね! Hokudai](#)」により確認することができる。

構内循環バス 停留所マップ

2024.1版



日本語	English	アイヌ語
1 事務局	Administration Bureau	カンピカウシ
2 クラーク会館	Clark Memorial Student Center	クラークエシカルンウウエウカッパチセ
3 理学部	School of Science	カムイレンカウワンパレカンピヌイエウシ
4 工学部	School of Engineering	イカッカンピヌイエウシ
5 学生交流ステーション	Student Communication Station	カンピヌイエタルウタウササウシ
6 高等教育推進機構	Institute for the Advancement of Higher Education	リクンイバカシスウコピカレウシ
7 低温科学研究所	Institute of Low Temperature Science	シムルプシカンピヌイエウシ
8 動物医療センター	Veterinary Teaching Hospital	チコイキブイカフイエウシ
9 電子科学研究所	Research Institute for Electronic Science	イメルゴカンピヌイエウシ
10 創成科学研究棟	Creative Research Institution	アシリカムイレンカンピヌイエウシ
11 FMI国際拠点	Global Research Center for Food & Medical Innovation	イペイトウサレピリカレモシリカマチャシ
12 創成科学研究棟	Creative Research Institution	アシリカムイレンカンピヌイエウシ
13 電子科学研究所	Research Institute for Electronic Science	イメルゴカンピヌイエウシ
14 動物医療センター	Veterinary Teaching Hospital	チコイキブイカフイエウシ
15 低温科学研究所	Institute of Low Temperature Science	シムルプシカンピヌイエウシ
16 体育館	Gymnasium	ウエトウシマツケル
17 医学部	School of Medicine	イトウサレカンピヌイエウシ
18 歯学部	School of Dental Medicine	ニマツトウサレカンピヌイエウシ
19 教育学部	School of Education	イバカシスカンピヌイエウシ <small>意味はこちら!</small>
20 経済学部	School of Economics and Business	イチエンカンピヌイエウシ
21 事務局	Administration Bureau	カンピカウシ

アイヌイタク アニ エシコイタクアシ ナ (アイヌ語でお話します)

- 令和6年1月から、一部の循環バスにアイヌ語アナウンスを導入しています。
- 本学は、アイヌ民族にルーツを持つ学生・教職員が安心してできる環境を醸成するとともに、それ以外の構成員がアイヌ文化への理解を深められるよう、アイヌ文化が自然に存在するキャンパス環境整備を進めています。
(アイヌ共生推進本部)



(車内掲示物)

(4) 歴史的経緯の語り継ぎ

上述のとおり、「学生への教育」及び「教職員への研修」として、アイヌ民族と本学の多様な歴史的つながりに言及し、本学の構成員として必ず理解すべき事項として説明を行った。

また、アイヌ民族と本学キャンパスの歴史に関する学内叙述を収集するとともに、その発信のあり方について検討を行った。

(5) レイシャル・ハラスメント対策

本学ではアイヌ民族を含む様々な民族的な背景を持つ学生や教職員が勉学や研究、職務に励んでおり、こうした学生・教職員が、差別や偏見に遭うことなく安心して活動できる環境を整備するため、民族的属性を理由とする差別的言動であるレイシャル・ハラスメント、特にアイヌ民族に対する差別的言動を防止するための情報について、以下のとおり整理し、発信を行った。

① ガイドライン「レイシャル・ハラスメントを防止するために」の作成

レイシャル・ハラスメントに関する基本的な情報、事例、対応策等をまとめたガイドラインを作成し、12月8日に本部のウェブサイトに[オンライン](#)で掲載した。また、その旨、教職員及び学生に周知した。

② 啓発リーフレットの作成

上記①のガイドラインの内容をコンパクトにまとめたリーフレットを作成し、令和6年度に全学に配布する準備を行うとともに、先行して3月1日に、本部のウェブサイトに[オンライン](#)で掲載した。また、令和6年度新規学部入学生に対して、同内容の電子データを配布する準備を行った。

3. アイヌ民族との対話

各施策の企画立案・実施に活かすため、アイヌにルーツを持つ学生・教職員等と計6回、対話を行った。対話のテーマは、「研修について」「アイヌ民族である学生・教職員が安心して教育研究に専念できる環境の整備」であった。

4. おわりに

令和5年度においては、上記のとおり「学生への教育」「教職員への研修」「文化振興」「歴史的経緯の語り継ぎ」「レイシャル・ハラスメント対策」のそれぞれに一定の進捗が見られた。特に、必修授業の実施、研修受講者の大幅な増加、アイヌ文化を身近に感じられる料理フェア等の実施、レイシャル・ハラスメント対策を行えたことは、重要な成果だったといえる。

令和6年度においては、これらの実績を引き継ぎ、研修内容の充実、文化振興に関する具体的施策の推進等について、引き続き事業を進めていく。